

新しいお薬ができるまで

みなさんこんにちは。ヘルスファーマシー薬局の薬剤師の土生(はぶ)と申します。
今回はお薬がどのようにして誕生するのか？というテーマで話をさせていただきます。
現在日本では年間40~50種類の新しいお薬が誕生していますが、発売されるまでには
長~い道のりがあるんですよ。

道のり① 「探す」

自然界などの中から「病気に効きそうだな」と思われる物質を探し研究を始めます。
しかしその中から実際に薬になるのは約30,000個に1個と言われています。

道のり② 「調べる」

探し出した物質が本当に効くかを調べますが、いきなり人には試せません。
試験管の中や動物に効き目があるか？副作用はないか？などを調べてから人に試すことになります。
人に試す時も少数の健康な人⇒少数の患者さん⇒多くの患者さんと段階を踏みつつ
効きめだけではなく安全かどうか？なども調べます。

道のり③ 「届ける」

人に対し効き目や安全性が確認されたら厚生労働省に製造・販売してもいいかを申請
します。国はその薬を厳しくチェックして問題なければ製造・販売を許可します。

このようにして1つの新しいお薬が世の中に誕生しますが、莫大な開発費と研究開始から
10年以上もの歳月がかかります。

しかし発売された後も「より安全な使い方」「より効果的な使い方」「副作用の発現状況」などの
調査はずっと続けられていきます。

当院で予防接種しませんか？



診療所ではなく、予防接種専用建物で行いますので
風邪の患者さんと接触する心配がありません。



【 どうぞのいす 】



うさぎさんが作ったしるしに短いしっぽをつけた小さいいす、「どうぞのいす」と書いた立て札と一緒に野原の木の下に置きました。すると、どんぐりをいっぱい拾って疲れたロバさんが一休み……。寝ている間にどんなことが起こるのか？起きた後のロバさんの言葉に、気持ちがほっこりしてしまう、そんな絵本です。

作 香山 美子
絵 柿本 幸造

保育士 吉岡 美紀



今号のスタッフ一言日記

少しずつ日が暮れるのが早まり、夏の疲れが体調に出てくるのではないのでしょうか？私は毎年町内のお祭りで綿あめ係をしています。今年も200本の綿あめを作り、子ども達に配りました。子どもの頃、ワクワクして「買って～」とせがんだのを思い出します。大人になっても子どもの頃の気持ちを忘れずに子育てを楽しんでいきたいですね。

保育士 白石 真理子